

(品目別需給編)

1 小麦

(1)国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2019/20 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・インド、ロシア、ウクライナ等で上方修正され、史上最高となる見込み。

消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・米国、ロシア等で上方修正され、史上最高となる見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・EU等で下方修正も、ロシア等で上方修正され、前月から上方修正された。

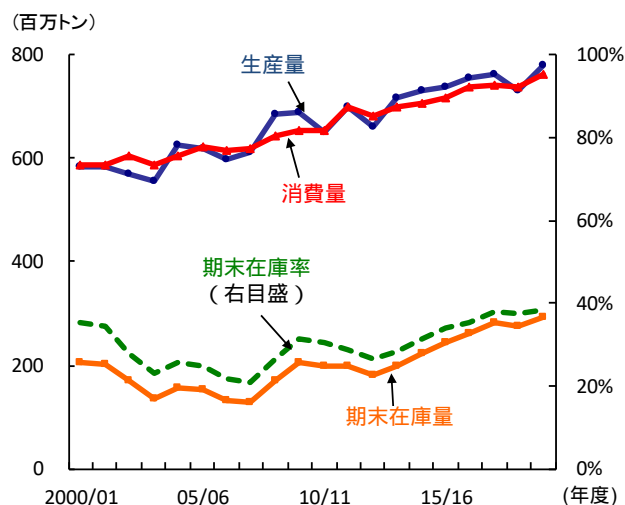
期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

◎世界の小麦需給

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	761.9	731.7	780.8	3.3	6.7
消費量	743.0	736.1	763.1	3.6	3.7
うち飼料用	146.8	139.5	152.6	2.3	9.4
輸出量	181.8	175.7	185.4	0.8	5.5
輸入量	179.8	174.2	180.0	0.3	3.3
期末在庫量	281.0	276.6	294.3	1.3	6.4
期末在庫率	37.8%	37.6%	38.6%	▲ 0.0	1.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、「PS&D」(11 June 2019)

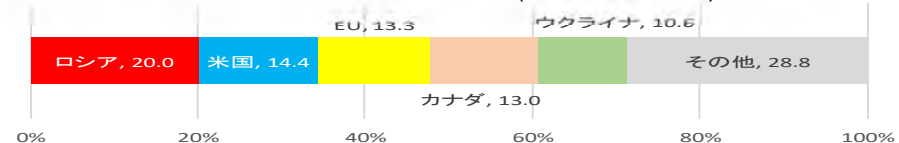


資料：USDA 「PS&D」(2019.6.11)をもとに農林水産省で作成。

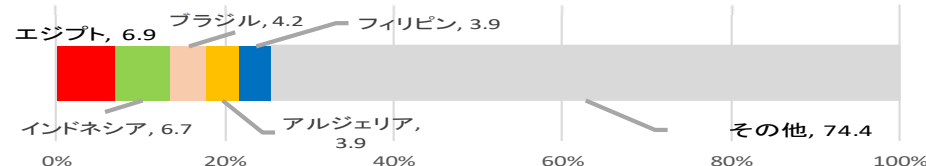
○ 2019/20 年度の世界の小麦の生産量(780.8 百万トン)(単位：%)



○ 2019/20 年度の世界の小麦の輸出量(185.4 百万トン)



○ 2019/20 年度の世界の小麦の輸入量(180.0 百万トン)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)「Crop Progress」(2019.6.24)によれば、冬小麦の収穫が開始されており、6月23日時点の収穫進捗率(主要生産18州)は15%と、前年度同期(39%)及び5年平均(34%)を下回っている。一方、作柄評価は、良～やや良が61ポイントと、前週の64ポイントを下回るものの、前年度同期の37ポイントを上回っている。

また、春小麦は、発芽がほぼ終盤となり、出穂が進んでいるが、同日時点の出穂進捗率(主要生産6州)は7%と、前年度同期(30%)及5年平均(29%)を下回っている。

2019/20年度の生産量(冬、春小麦)は、前月に比べ0.2百万トン上方修正され、51.8百万トンとなる見込み。

なお、USDA「作付面積調査」(2019.6.28)によれば、収穫面積が6月の需給報告(右表)

から下方修正され、前年度より3.0%減の15.54百万ヘクタールとなった。世界的な小麦需給の緩和による相場の低迷が要因とみられる。

【需給動向】米国産とうもろこしの飼料用需要が、生産量の減少に伴って、7.6百万トン下方修正されたことから、今後、飼料用とうもろこしの一部が小麦に代替される見込みにより、小麦の飼料用需要が前月に比べ1.4百万トン上方修正された。

【貿易情報・その他】2019/20年度の輸出量は、前月からの変更はなく24.5百万トンの見込み。ロシア等の輸出量や、EU、豪州の生産量回復による輸出余力の増加から、米国の輸出量の伸びは抑えられる見込み。

小麦 - 米国

(冬小麦が全体の7割、春小麦は3割)

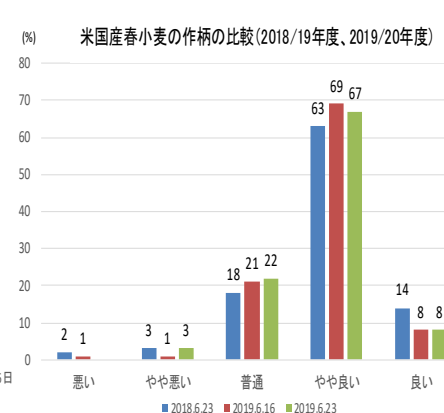
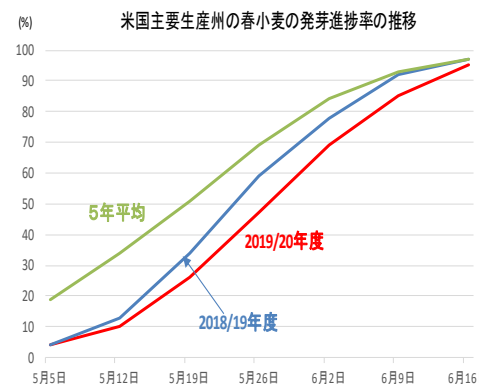
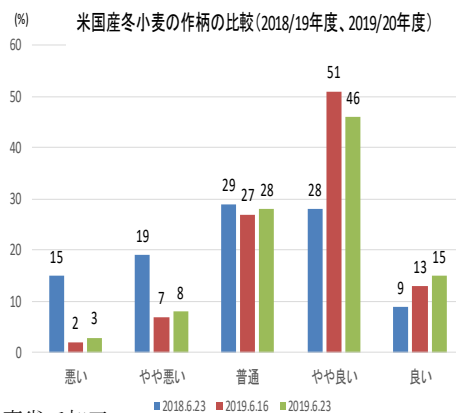
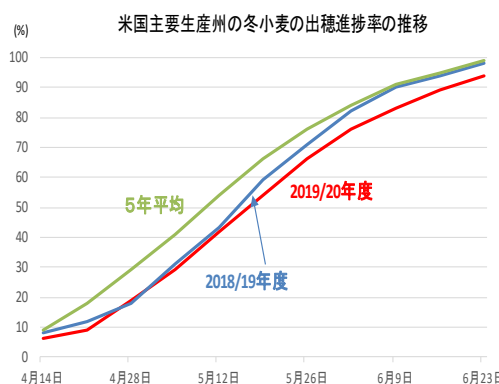
(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	47.4	51.3	51.8	0.2	1.0
消費量	29.4	29.2	31.9	1.4	9.5
うち飼料用	1.4	1.4	3.8	1.4	180.1
輸 出 量	24.5	25.9	24.5	-	▲ 5.3
輸 入 量	4.3	3.8	3.8	-	-
期末在庫量	29.9	30.0	29.2	▲ 1.9	▲ 2.8
期末在庫率	55.5%	54.5%	51.7%	▲ 4.7	▲ 2.8

(参考)

収穫面積(百万ha)	15.20	16.03	15.80	-	▲ 1.4
単収(t/ha)	3.12	3.20	3.28	0.01	2.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(11 June 2019)



資料: 米国農務省「Crop Progress」をもとに農林水産省で加工

< カナダ >

【生育・生産状況】USDAによれば、6月上旬、カナダ大平原の多くの地域では、土壌水分が不足していたものの、小麦の作付けはほぼ終了した。そのうち、サスカチュワン州、アルバータ州では6月中旬に降雨に恵まれ、土壌水分が改善した。

2019/20年度の生産量は、前月からの変更はなく、34.5百万トンと前年度より8.5%増加する見込み。

なお、カナダ農務農産食品省(AAFC)の6月報告によれば、デュラム小麦を除く普通小麦とデュラム小麦の合計した生産量は、前月からの変更はなく33.9百万トンの見込み。

内訳は、デュラム小麦を除く普通小麦が28.7百万トン、デュラム小麦が5.2百万トン。

【貿易情報・その他】AAFCによれば、輸出量は前月に比べ0.1百万トン上方修正され、23.7百万トンとなる見込み。これは、世界のデュラム小麦の生産量の減少により、カナダのデュラム小麦への需要が増加するため。

< EU >

【生育・生産状況】USDAによれば、6月中旬までに、英国、フランス、ドイツから北部諸国にかけて降雨があり、開花期（ドイツ北部等）、登熟期（フランス、ドイツ南部等）を迎えた各地の冬小麦にとって恵みの雨となった。一方、スペイン、ポルトガルでは乾燥型の天候が続き、冬小麦の単収予測が悪化した。

2019/20年度の小麦の生産量は、収穫面積が下方修正されたものの、単収が上方修正されたことから、前月からの変更はなく153.8百万トンの見込み。なお、EU域内の国別の前月からの主な変更は、引き続き乾燥によりスペインで1.1百万トン下方修正された一方で、平均降水量を上回る降雨で土壌水分が改善されたルーマニアで0.7百万トン、イタリアで0.4百万トン上方修正された。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、より安価なロシア、ウクライナの輸出量の増加から、前月に比べ0.5百万トン下方修正され、26.5百万トンとなる見込み。

小麦 - カナダ

(春小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	30.0	31.8	34.5 (33.9)	-	8.5
消費量	9.4	9.1	9.5 (8.9)	-	4.4
うち飼料用	4.5	4.2	4.5 (4.1)	-	7.1
輸 出 量	22.0	24.3	24.0 (23.7)	-	▲ 1.2
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.1)	-	-
期末在庫量	5.9	4.8	6.2 (6.7)	▲ 0.1	30.4
期末在庫率	18.9%	14.3%	18.6% (20.5%)	▲ 0.3	4.3

(参考)

収穫面積(百万ha)	8.98	9.90	10.00 (10.22)	-	1.0
単収(t/ha)	3.34	3.21	3.45 (3.31)	-	7.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
USDA 「World Agricultural Production」(11 June 2019)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(14 June 2019)

デュラム小麦を除く普通小麦 : 冬小麦、春小麦

小麦 - EU

(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はEU	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	151.1	137.2	153.8 (152.1)	-	12.1
消費量	130.4	123.1	128.0 (126.7)	-	4.0
うち飼料用	58.0	52.0	56.5 (53.0)	-	8.7
輸 出 量	23.3	24.0	26.5 (26.6)	▲ 0.5	10.4
輸 入 量	5.8	5.5	5.5 (5.1)	-	-
期末在庫量	14.0	9.6	14.4 (16.7)	0.2	49.9
期末在庫率	9.1%	6.5%	9.3% (10.9%)	0.2	2.8

(参考)

収穫面積(百万ha)	26.16	25.70	26.45 (26.22)	▲ 0.05	2.9
単収(t/ha)	5.78	5.34	5.81 (5.8)	0.01	8.8

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
USDA 「PS&D」(11 June 2019)
EU 「Balance Sheets For Cereals and Oilseeds and Rice」(24 May 2019)

< ロシア >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月に比べ、冬小麦の単収の上昇から1.0百万トン上方修正され、78.0百万トンの見込み。冬小麦の単収の上方修正は、カフカス地方南部及び北部での引き続き良好な天候によるもの。

なお、ロシア気象センターによれば、5月下旬現在、冬小麦は、南連邦管区及び北カフカス連邦管区で開花期から出穂期、一部で登熟期に入っている。作柄は概ね良好。また、大雨で土壌水分過多となった中央連邦管区及び沿ボルガ連邦管区で茎立期、一部では、例年より1～2週間早く出穂期を迎えている。

春小麦は、ウラル連邦管区の作付けが5月に温暖な天候に恵まれ進展し、6月上旬にはほぼ終了。また、シベリア連邦管区の作付けは、寒気により遅延したが、5月末には終了した。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前月に比べ1.0百万トン上方修正され、37.0百万トンの見込み。これは、ロシアの主要な輸出地域である南部の冬小麦の生産量予測が増加したため。また、ロシアは、安価な国内小麦価格とルーブル安により、前年度に続き世界第一の小麦輸出国となる見込み。

< 中国 >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月からの変更はなく、前年度より0.4%増加の132.0百万トンの見込み。

中国中央気象台によれば、2019/20年度の冬小麦は、甘粛省及び陝西省で開花期、河北省及び河南省等で、成熟期から収穫期に入っている。河北省等では乾燥天候が登熟に影響を与えた。また、四川省及び重慶市等では収穫が終了している。また、春小麦は、甘粛省及び陝西省で穂ばらみ期から開花期、黒竜江省では節間伸長期に入っている。

冬小麦の作柄は、一、二類苗(※)の比率がそれぞれ27%、71%であり、一類苗の比率は前年度同期(22%)より高い。

なお、中国糧油情報センターによれば、2019/20年度の生産量は、前月からの変更はなく132.0百万トン(冬小麦：125.0百万トン、春小麦7.0百万トン)の見込み。

小麦 - ロシア

(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	85.2	71.7	78.0 (79.5)	1.0	8.8
消費量	43.0	40.5	41.5 (43.1)	1.0	2.5
うち飼料用	20.0	18.0	19.0 (19.6)	0.5	5.6
輸 出 量	41.4	36.0	37.0 (35.2)	1.0	2.8
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.4)	-	-
期末在庫量	12.0	7.7	7.7 (11.7)	-	-
期末在庫率	14.3%	10.1%	9.8% (14.9%)	▲ 0.3	▲ 0.3

(参考)

収穫面積(百万ha)	27.37	26.34	26.50 (27.30)	-	0.6
単収(t/ha)	3.11	2.72	2.94 (2.91)	0.03	8.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 June 2019)
IGC 「Grain Market Report」(30 May 2019)

小麦 - 中国(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	134.3	131.4	132.0 (131.2)	-	0.4
消費量	121.0	125.0	128.0 (127.9)	-	2.4
うち飼料用	17.5	20.0	21.0 (20.0)	-	5.0
輸 出 量	1.0	1.2	1.3 (1.2)	-	8.3
輸 入 量	4.0	3.5	3.5 (3.6)	-	-
期末在庫量	131.3	140.0	146.2 (127.2)	-	4.4
期末在庫率	107.6%	110.9%	113.1% (98.5%)	-	2.1

(参考)

収穫面積(百万ha)	24.51	24.27	24.10 (24.00)	-	▲ 0.7
単収(t/ha)	5.48	5.42	5.48 (5.47)	-	1.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 June 2019)
IGC 「Grain Market Report」(30 May 2019)

※一類苗：生育が正常な苗、二類苗：通常の苗よりやや小さい苗
三類苗：病気の苗、弱い苗

<豪州>

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度は、クイーンズランド州南部及びニューサウスウェールズ州北部で、6月初旬に降雨があったものの、それ以降は再び乾燥天候が続く、降雨が必要な状況である。一方、降水量が不足していたウェスタンオーストラリア州では、6月に入り降雨に恵まれ小麦の初期生育が進んだ。また、生育に更なる降雨が必要な状況であったニューサウスウェールズ州南部等の産地でも6月に入り、降雨に恵まれた。

2019/20年度の生産量は、前月からの変更はなく、22.5百万トンと前年度より30.1%増加する見込み。

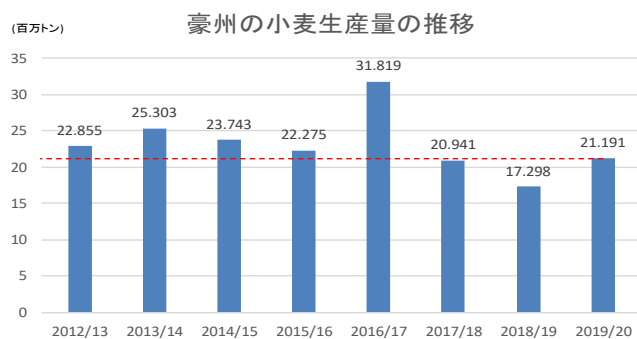
なお、豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Australian crop report」(2019.6.12)によれば、2019/20年度は、前年度(17.3百万トン)より22.5%増加し21.2百万トンとなる見込み。主要産州別の生産量は、前年度をウェスタンオーストラリア州で下回るものの、ニューサウスウェールズ州等で上回る見込み。

【貿易情報・その他】2019/20年度の輸出量は、前月からの変更はなく13.5百万トンの見込み。干ばつ被害のあった前年度から生産量が回復する見込みであることから、輸出量は前年度から50%増加する見込み。なお、2018/19年度は、ベトナム、インドネシア等の東南アジア諸国が、低品質なものの相対的に安価な小麦を供給する黒海諸国に輸入先をシフトしていること等から、豪州の輸出量は減少する見込み。

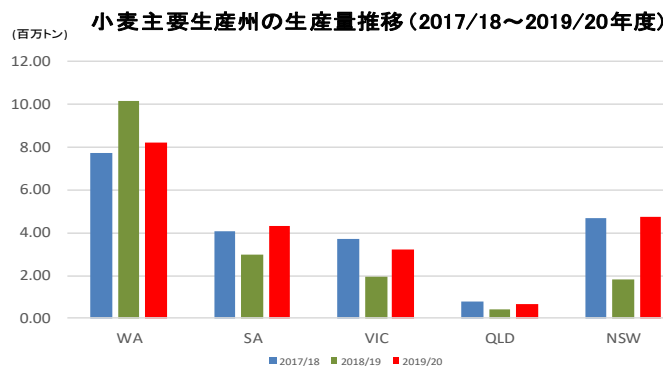
小麦 - 豪州
(冬小麦を主に栽培)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予 測 値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	20.9	17.3	22.5 (22.9)	-	30.1
消費量	7.5	9.2	9.0 (8.0)	0.5	▲ 2.2
うち飼料用	4.0	5.7	5.5 (4.4)	0.5	▲ 3.5
輸 出 量	13.9	9.0	13.5 (14.5)	-	50.0
輸 入 量	0.2	0.2	0.2 (0.2)	-	▲ 25.0
期末在庫量	5.5	4.8	5.0 (4.9)	0.2	3.1
期末在庫率	25.8%	26.4%	22.0% (22.0%)	0.4	▲ 4.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)※	10.92	10.20	12.00 (12.10)	-	17.6
単収(t/ha)	1.92	1.70	1.88 (1.89)	-	10.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 June 2019)
IGC 「Grain Market Report」(30 May 2019)



資料：ABARES「Australian crop report」(June 2019)をもとに農林水産省で加工。



豪州の州名と略称	
WA	: ウェスタンオーストラリア州
SA	: サウスオーストラリア州
VIC	: ビクトリア州
QLD	: クイーンズランド州
NSW	: ニューサウスウェールズ州

2 とうもろこし

(1) 国際的な需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し>

2019/20 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・米国で降雨過多による単収、収穫面積の下方修正により、前月から下方修正された。

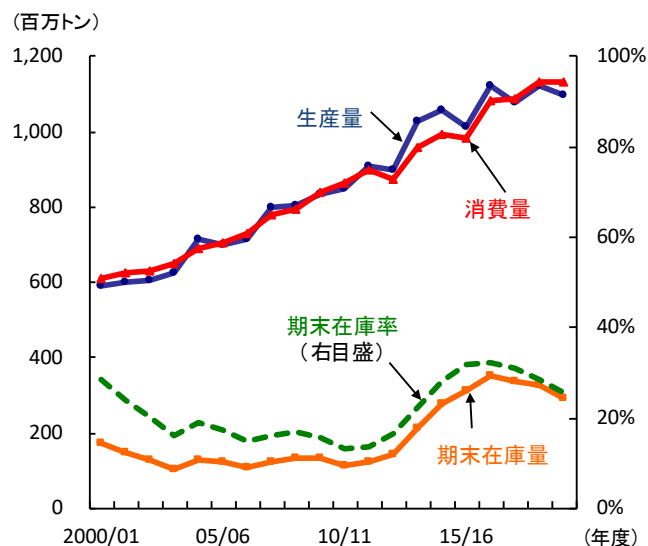
消費量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・米国で供給減による需要の小麦への代替等により、前月から下方修正された。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・米国で生産減による輸出量の下方修正により、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



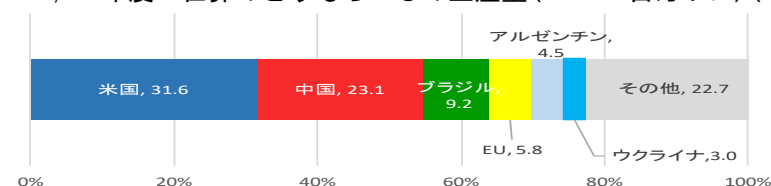
資料：USDA「PS&D」(2019.6.11)をもとに農林水産省にて作成

(単位:百万トン)

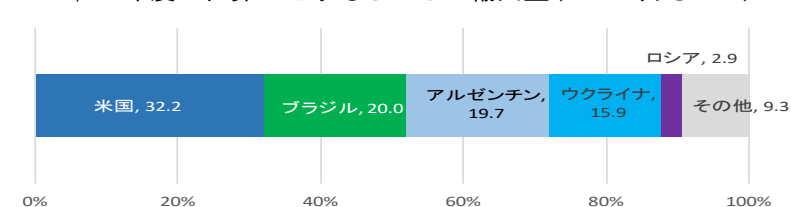
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1,078.0	1,120.5	1,099.2	▲ 34.6	▲ 1.9
消費量	1,090.2	1,134.3	1,134.1	▲ 11.0	▲ 0.0
うち飼料用	673.0	699.3	696.3	▲ 8.9	▲ 0.4
輸出量	148.8	172.8	169.8	▲ 1.8	▲ 1.7
輸入量	149.9	164.1	167.4	0.4	2.0
期末在庫量	339.3	325.4	290.5	▲ 24.2	▲ 10.7
期末在庫率	31.1%	28.7%	25.6%	▲ 1.9	▲ 3.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(11 June 2019)

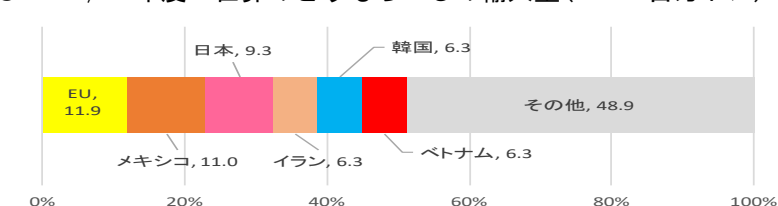
○ 2019/20 年度 世界のとうもろこしの生産量(1099.2百万トン)(単位:%)



○ 2019/20 年度 世界のとうもろこしの輸出量(169.8百万トン)



○ 2019/20 年度 世界のとうもろこしの輸入量(167.4百万トン)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】6月以降も断続的に続く降雨により、通常、5月末に終了する作付けに遅れが生じた。米国農務省(USDA)「Crop Progress」(2019.6.24)によれば、6月23日時点の作付進捗率は96%とようやく終了した。また、6月23日時点の発芽率は89%と過去5年平均99%より遅れている。

USDAによれば、作付け遅れにより、収穫面積、単収とも前月より下方修正され、生産量は前年度より5.1%減の347.5百万トンの見込み。単収は2015/16年度以来の低水準。

なお、USDA「作付面積調査」(2019.6.28)によれば、収穫面積が、6月の需給報告(右表)から上方修正され、前年度より2.3%増の33.83百万ヘクタールの見込み。大豆と比べ収益性が良いことが要因とみられる。ただし、生産量に関しては、今後の受粉期の天候による単収への影響等が不確定要素となる。

【需要動向】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、供給減少により前月より飼料用需要が下方修正され、前年度より0.8%減の307.4百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量については、供給量の減少により前月に比べ下方修正され、対前年度比で2.3%減となる54.6百万トンの見込み。なお、5月の輸出検証高(369万トン)は、我が国向けが最も多く(116万トン)、続いてメキシコ(97万トン)、コロンビア、韓国、台湾向け。

価格については、降雨過多による作付け遅れにより、5月から6月中旬にかけてとうもろこしのシカゴ相場、輸出価格が上昇したが、その後、天候の回復見通しや6月28日付けの作付面積調査結果が市場予想を上回ったため下落した。

なお、USDAは、5月に米中通商摩擦の影響を受けたとうもろこしや大豆等を栽培する農業者への支援策として145億ドルの直接支払いを行う「Market Facilitation Program」、6月には洪水などの災害に被災した州や地域向けの支援策として190億ドルを補助する「Disaster Relief Act」等を公表した。

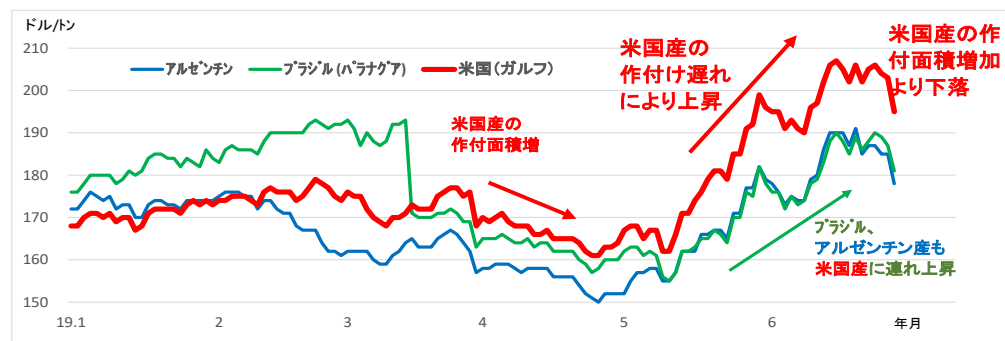
とうもろこし—米国

(単位:百万トン)

年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	371.1	366.3	347.5	▲ 34.3	▲ 5.1
消費量	314.0	309.9	307.4	▲ 7.6	▲ 0.8
うち飼料用	134.7	134.6	130.8	▲ 7.6	▲ 2.8
エタノール用等	142.4	138.4	139.7	-	0.9
輸出量	61.9	55.9	54.6	▲ 3.2	▲ 2.3
輸入量	0.9	0.9	1.3	0.4	42.7
期末在庫量	54.4	55.8	42.6	▲ 20.6	▲ 23.7
期末在庫率	14.5%	15.2%	11.8%	▲ 5.2	▲ 3.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	33.48	33.08	33.35	▲ 1.21	0.8
単収(t/ha)	11.08	11.07	10.42	▲ 0.63	▲ 5.9

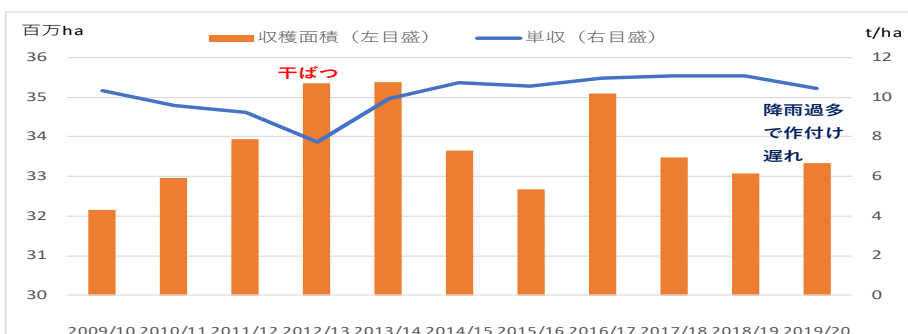
資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 June 2019)

図: 米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格(FOB)の推移



資料: IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

図: 米国産とうもろこしの過去10年間との単収・収穫面積の比較



資料: USDA「PS&D」のデータをもとに農林水産省にて作成

< ブラジル >

【生育・生産状況】USDAによれば、例年10月以降作付けされる2019/20年度の生産量は、前年度並の101.0百万トンの見込み。

なお、ブラジル食料供給公社(Conab)月例報告(2019.6.11)によれば、2018/19年度のとうもろこし(夏冬の合計)の生産量は97.0百万トンと2017/18年度(80.7百万トン)より増加する見込み。うち、収穫済みの夏とうもろこしは26.3百万トン(前年度比1.9%減)、生育中の冬とうもろこしは70.7百万トン(前年度比31.1%増)である。冬とうもろこしの生育状況は降雨に恵まれ順調である(p.17 クロップカレンダー参照)。

パラナ州の公表資料によれば、冬とうもろこしの収穫が開始され、6月17日現在、収穫率は21%となっており、7月以降、収穫が最盛期を迎えるとみられる。

【貿易情報・その他】USDAによれば、近年の増産により、2018/19年度の輸出量は34.0百万トンに増加し、とうもろこし輸出国の世界第2位の座をアルゼンチンと争っている。(図参照)。

ブラジルの貿易統計によると、4月の輸出量は42.6万トンで、主な輸出先は、イラン、ベトナム。1~4月までの輸出量累計は703.8万トンとなっている。Conabによれば、米国の作付け遅れによる減産見通しにより、今後、ブラジル産の輸出量は増加する見込み。8月以降、米国産の一部にとって代わるとみられる。

とうもろこし—ブラジル

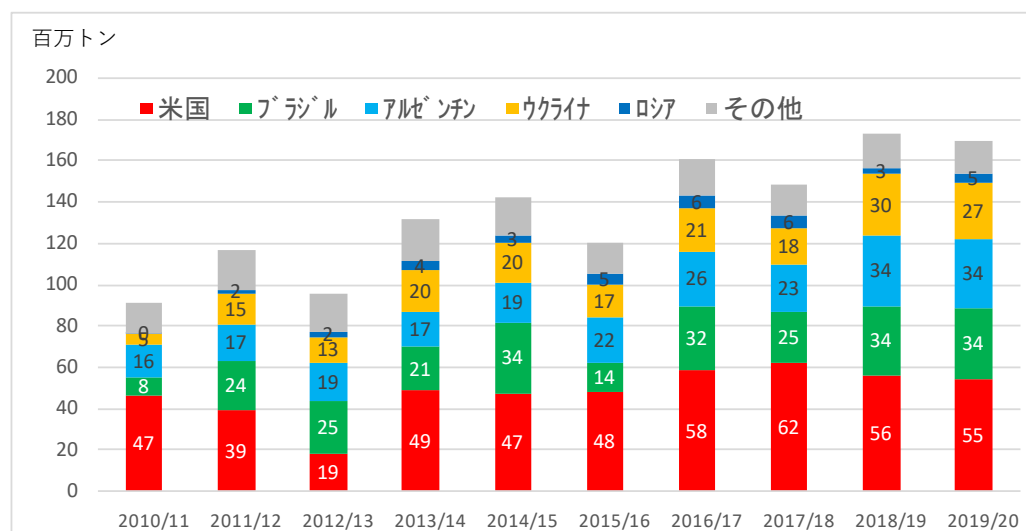
(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが7割を占め、夏とうもろこしは3割)

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	82.0	101.0	101.0 (98.5)	-	-
消費量	64.5	66.5	69.5 (67.4)	-	4.5
うち飼料用	55.0	56.0	58.0 (53.5)	-	3.6
輸 出 量	25.1	34.0	34.0 (31.0)	-	-
輸 入 量	0.9	1.0	1.0 (0.3)	-	-
期末在庫量	7.3	8.8	7.3 (8.5)	▲ 1.0	▲ 17.0
期末在庫率	8.2%	8.8%	7.1% (8.6%)	▲ 0.0	▲ 1.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.60	17.50	18.10 (17.50)	-	3.4
単収(t/ha)	4.94	5.77	5.58 (5.63)	-	▲ 3.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 June 2019)
IGC 「Grain Market Report」(30 May 2019)

図：世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移
ブラジル、アルゼンチンが2位争い



資料: USDA 「PS&D」(2019.6)のデータをもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】USDAによれば、例年9月以降作付けされる2019/20年度の生産量は、前月に比べ上方修正され、前年度を2.0%上回る50.0百万トンの見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所の週報(2019.6.19)によれば、2018/19年度の実生産量は48.0百万トンと乾燥被害のあった2017/18年度(31.7百万トン)と比較して増加する見通し。現在、収穫が最盛期を迎えているが、降雨により遅れており、進捗率は44.2%となっている。

【貿易情報・その他】

2019/20年度の輸出量は、生産量の上方修正により、前月より上方修正され33.5百万トンの見込み。

2018/19年度の輸出量は、2017/18年度と比べ生産量の回復から10.5百万トン増加し、34.0百万トンの見通しであるが、現在、とうもろこしの輸出に関し、昨年9月から1ドル当たり4ペソの輸出税の賦課が継続されており、輸出拡大の懸念材料となるとみられる。

< 中国 >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の実生産量は、前月から変更なく254.0百万トンと前年度より1.3%減少する見込み。政府によるととうもろこしの在庫の積み上がりの解消政策として、大豆への作付け転換が奨励されていることにより作付面積が減少したことが要因とみられる。

中国中央气象台によれば、5月下旬から6月上旬にかけて四川省等では、節間伸長期からシルキング期、東北地区から河北省にかけて生育期を迎えている。国家情報糧油センターによれば、生育に必要な土壌水分が不足していた東北部で降雨があり改善された。

【需給状況】USDAによれば、2019/20年度の消費量は279.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】中国の貿易統計によれば、2019年1-5月の輸入量は239万トンで、そのうち9割以上がウクライナ産である。

とうもろこしーアルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	32.0	49.0	50.0 (52.8)	1.0	2.0	
消費量	12.4	13.8	15.0 (23.3)	-	8.7	
うち飼料用	8.5	9.7	10.3 (18.0)	-	6.2	
輸 出 量	22.5	34.0	33.5 (30.1)	1.0	▲ 1.5	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-	
期末在庫量	2.4	3.6	5.1 (8.0)	▲ 2.5	42.2	
期末在庫率	6.8%	7.5%	10.5% (15.0%)	▲ 5.5%	3.0	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	5.20	5.90	6.10 (7.30)	0.10	3.4	
単収(t/ha)	6.15	8.31	8.20 (7.23)	0.03	▲ 1.3	

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 June 2019)
IGC「Grain Market Report」(30 May 2019)

とうもろこしー中国

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	259.1	257.3	254.0 (259.2)	-	▲ 1.3	
消費量	263.0	275.0	279.0 (287.8)	-	1.5	
うち飼料用	187.0	192.0	190.0 (181.0)	-	▲ 1.0	
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-	
輸 入 量	3.5	5.0	7.0 (5.0)	-	40.0	
期末在庫量	222.5	209.8	191.8 (175.3)	-	▲ 8.6	
期末在庫率	84.6%	76.3%	68.7% (60.9%)	-	▲ 7.6	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	42.40	42.13	41.00 (41.80)	-	▲ 2.7	
単収(t/ha)	6.11	6.11	6.20 (6.20)	-	1.5	

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 June 2019)
IGC「Grain Market Report」(30 May 2019)

3 米

(1) 国際的な米需給の概要(詳細は右表を参照)

<米国農務省(USDA)の見通し>

2019/20年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・米国で降雨過多により下方修正され、前月から下方修正された。

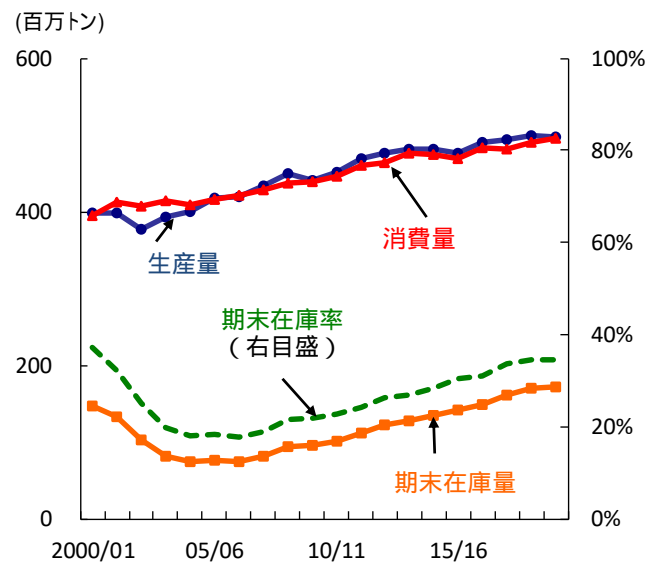
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・中国、米国等で下方修正され、前月から下方修正された。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・インド等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」(2019.6.11)をもとに農林水産省にて作成

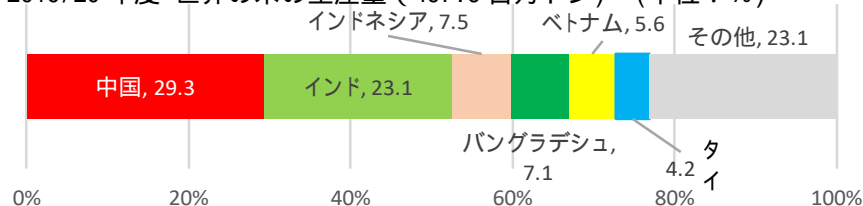
世界の米需給

(単位:百万精米トン)

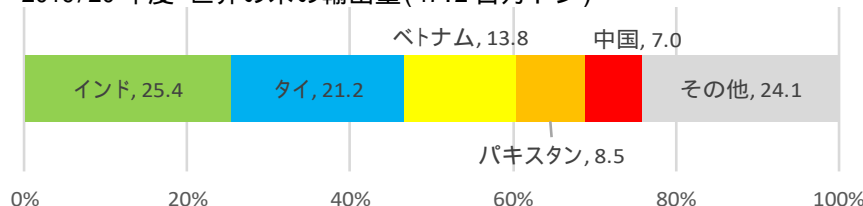
年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	494.9	499.1	497.6	0.8	0.3
消費量	482.4	491.0	496.0	0.2	1.0
輸出量	47.1	46.9	47.2	0.4	0.7
輸入量	46.8	44.5	44.5	0.5	0.2
期末在庫量	162.1	170.2	171.9	0.3	1.0
期末在庫率	33.6%	34.7%	34.7%	0.1	0.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 June 2019)

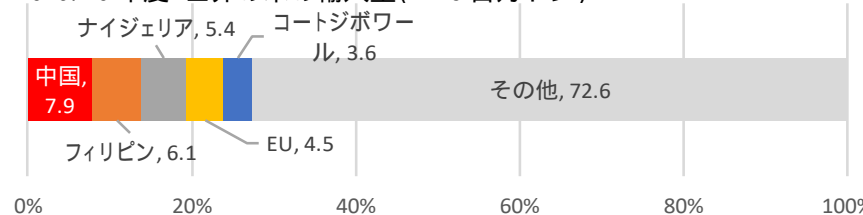
○ 2019/20年度 世界の米の生産量(497.6百万トン) (単位:%)



○ 2019/20年度 世界の米の輸出量(47.2百万トン)



○ 2019/20年度 世界の米の輸入量(44.5百万トン)



(2) 国別の米の需給動向

< 米国 >

【生産動向】米国農務省(USDA)の「Crop Progress」(2019.6.24)によれば、4月から断続的に続く降雨により作付開始が遅れたことから、出穂率は生産州全体で5%となっており、過去5か年平均に比べ、3ポイント遅れている。なお、中・短粒種の生産州であるカリフォルニア州の生育状況は良好。生産量は、南部の長粒種産地で降雨過多により作付けが遅れ、収穫面積が減少したことから前月に比べ0.6百万トン下方修正され、対前年度比11.7%減の6.3百万トンの見込み。

なお、USDA「作付面積調査」(2019.6.28)によれば、収穫面積が6月の需給報告(右表)から上方修正され、対前年度比7.0%減の1.10百万ヘクタールとなる見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸出量は、減産となるブラジルに比べ競争力のある価格により対前年度比11.2%増の3.2百万トンとなり、メキシコ、中央アメリカ、南米北部で市場シェアを取り戻すと予想されている。輸入量は対前年度比2.2%増の0.9百万トンの見込み。

< インド >

【生育・生産動向】現地情報によれば、インド北西部では、2019/20年度のカリフ米のほ場準備に入っている。また、USDAによれば、単収は前年度比で増加するものの、収穫面積が減少することから、生産量は対前年度比0.5%減の115.0百万トンの見込み。高価格かつ旺盛な輸出需要によりカリフ期のバスマティ米(高級香米)の作付け増加を予想。

【貿易情報・その他】2019/20年度の輸出量は、アフリカ市場での競争力低下見通しにより前月に比べ0.5百万トン下方修正し、12.0百万トンが見込まれるものの、依然として9年連続で世界最大の輸出国となる見込み。

インド消費者問題・食料・公的分配省によれば、前年度が豊作となったことから5月時点の政府備蓄量は29.6百万トンと前年同月(25.4百万トン)を大きく上回っている。

米 - 米国

主に中・短粒はカリフォルニア、長粒はミシシッピ川沿いで栽培
カリフォルニア州の全米の米生産に占める生産シェアは約2割

(単位:百万精米トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	5.7	7.1	6.3	0.6	11.7
消費量	4.3	4.3	4.2	0.2	1.6
輸出量	2.8	2.9	3.2	0.0	11.2
輸入量	0.9	0.9	0.9	0.0	2.2
期末在庫量	0.9	1.8	1.6	0.2	9.9
期末在庫率	13.2%	25.5%	22.2%	2.3	3.3

(参考)

収穫面積(百万ha)	0.96	1.18	1.04	0.11	11.9
単収(もみt/ha)	8.41	8.62	8.65	0.02	0.3

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 June 2019)

米 - インド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、
南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	112.8	115.6	115.0 (117.5)	-	0.5
消費量	98.7	100.7	102.0 (102.3)	-	1.3
輸出量	12.0	12.5	12.0 (12.4)	0.5	4.0
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	22.6	25.0	26.0 (28.2)	0.5	4.0
期末在庫率	20.4%	22.1%	22.8% (24.6%)	0.5	0.7

(参考)

収穫面積(百万ha)	42.90	44.50	44.00 (44.25)	-	1.1
単収(もみt/ha)	3.94	3.90	3.92 (2.66)	-	0.5

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 June 2019)

IGC「Grain Market Report (30 May 2019)」(単収は精米t/ha)

<ベトナム>

【生育・生産動向】主産地のメコンデルタでは、前年度の冬春作の収穫が早期に終わったことから、2019/20年度の夏秋作の作付けも前年度より早期に完了。現在、夏秋作は幼穂分化期から出穂期、早いものは登熟期に入っており、順調に生育している。

USDAによれば、2019/20年度の生産量は、単収の増加により対前年度比1%増の28.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】2019年5月のインディカ精米(砕米5%)、ジャポニカ精米(砕米5%)の輸出価格は、それぞれ373ドル/トン、420ドル/トンで、前年同月(459ドル/トン、535ドル/トン)と比べ依然として低水準。2019年1~5月の輸出量は、重量ベースでは2.8百万トンと対前年同期比(2.9百万トン)で6.3%減となっている。

<タイ>

【生育・生産動向】USDAによれば、2019/20年度は、乾季作の作付け減少見通しから前月に比べ0.2百万トン下方修正され、20.9百万トンの見込み。なお、現地情報によれば、例年5月中旬から雨季が始まるが、中部及び北部の主産地では5月下旬になっても雨が不足し雨季作の開始が6月にずれこんだ。このため、登熟期から収穫期が洪水被害の多い8月に重なることが懸念される。

【貿易情報・その他】2019年1~4月のタイ産米の輸出量は、ベトナム、インド、中国との競争激化、パーツ高等により、前年同期比15.7%減の311.2万トンとなった。主な輸出先は、ベナン(58.6万トン)、フィリピン(24.7万トン)である。

6月19日時点のタイ産米(100%2等)の輸出価格は436ドル/トンで、ベトナム産より2割程度割高。5月以降安いベトナム産の新米が国際市場に出回っており、今後しばらくはタイ産の需要は低迷すると予想されている。

米 - ベトナム

北部で二期作、南部で二期作、三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位:百万精米トン)

年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.7	27.7	28.0 (29.3)	-	1.0
消費量	21.5	21.5	22.0 (22.9)	-	2.3
輸出量	6.6	6.5	6.5 (6.7)	-	-
輸入量	0.5	0.4	0.4 (0.4)	-	-
期末在庫量	1.0	1.2	1.1 (3.6)	-	8.7
期末在庫率	3.7%	4.1%	3.7% (12.2%)	-	0.4

(参考)

収穫面積(百万ha)	7.65	7.55	7.50 (7.65)	-	0.7
単収(もみt/ha)	5.79	5.87	5.97 (3.87)	-	1.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 June 2019)
IGC 「Grain Market Report (30 May 2019)」(単収は精米t/ha)

米 - タイ

夏の雨季作と冬の乾季作で行われる。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	20.6	20.7	20.9 (21.0)	0.2	0.9
消費量	11.0	10.8	10.9 (10.6)	-	0.9
輸出量	11.1	9.8	10.0 (10.4)	-	2.0
輸入量	0.3	0.3	0.3 (0.3)	-	-
期末在庫量	3.0	3.4	3.6 (3.5)	-	7.4
期末在庫率	13.6%	16.4%	17.3% (16.7%)	-	1.0

(参考)

収穫面積(百万ha)	10.76	10.96	11.01 (10.80)	0.06	0.5
単収(もみt/ha)	2.90	2.86	2.88 (1.94)	0.01	0.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 June 2019)
IGC 「Grain Market Report (30 May 2019)」(単収は精米t/ha)

< 中国 >

【生育・生産動向】6月上旬現在、2019/20年度の二期作早稲は、南部の産地で穂ばらみ期から出穂期に入っている。北部の一期作稲は移植期から活着期に入っている。ともに、前年度同期と比較して作柄がやや劣っているものの、大きな被害もなく順調に生育している。

USDAによれば、2019/20年度の生産量は、大豆への作付転換政策の影響で収穫面積及び単収ともに減少することから対前年度比1.7%減の146.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】2019/20年度の輸出量は前月に比べ0.3百万トン上方修正され、3.3百万トンの見込み。これは、政府備蓄在庫の古米が含まれることから特に中粒種の輸出価格が米国や豪州に比べ約半額となっていること、エジプト及び豪州が生産減少により輸出国から輸入国に転じたことから、価格を重視するアフリカや中東の輸入国にとって魅力的な選択肢となっているためである。

中国農業農村部の「農産品供需形勢分析月報」(5月分)によれば、早期インディカ、晩期インディカ、ジャポニカ米の卸売価格(精米)は、それぞれ3,720元/トン、4,080元/トン、4,060元/トン。前月と比べ、晩期インディカを除き下落し、ジャポニカ米の価格が晩期インディカ米の価格を下回った。

米 - 中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位:百万精米トン)

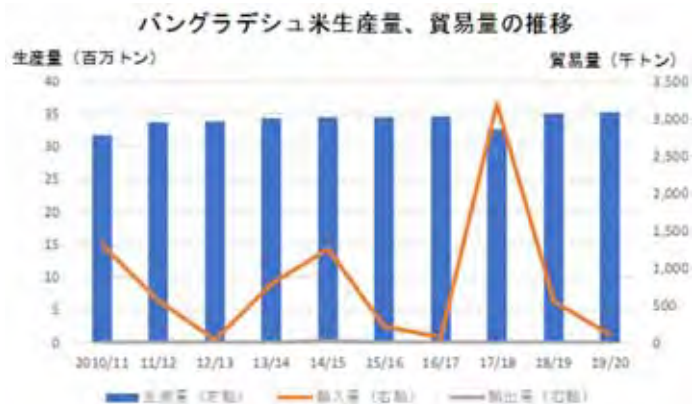
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	148.9	148.5	146.0 (147.4)	-	1.7
消 費 量	142.5	143.9	144.7 (146.1)	0.3	0.6
輸 出 量	1.4	2.6	3.3 (2.7)	0.3	26.9
輸 入 量	5.5	3.5	3.5 (4.0)	0.5	-
期末在庫量	109.0	114.5	116.0 (100.8)	1.0	1.3
期末在庫率	75.8%	78.2%	78.4% (67.8%)	0.7	0.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	30.75	30.19	30.00 (29.60)	-	0.6
単収(もみt/ha)	6.92	7.03	6.95 (4.95)	-	1.1

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 June 2019)
IGC「Grain Market Report (30 May 2019)」(単収は精米t/ha)

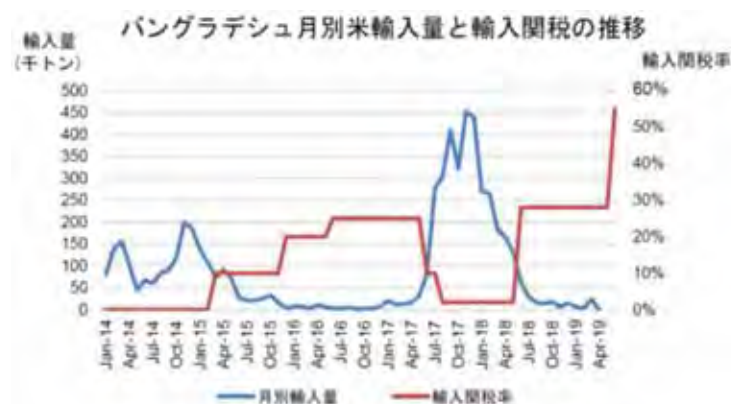
(参考) バングラデシュ 豊作予想を受け、輸入関税の引き上げと輸出禁止の解除

USDA の「Grain: World Markets and Trade」(2019年6月)の特集及び報道情報によると、

- ・バングラデシュは世界の生産量の7%を占める第4位の米(インディカ)生産国。一人当たり米消費量(年間)は172kgで日本の約3倍。(2013年:FAOSTAT)
- ・国内の米の作況と貿易政策の両方に左右され、近年輸入量は大幅に変動している。2017/18年度には生産量(32.7百万トン)の減少(前年度に比べ1.9百万トン減)から政府は輸入関税をわずか2%に引き下げ、主にインドから3.2百万トン(同年度の世界の輸入量の7%を占め、中国に次いで第2位)の輸入を行った。
- ・2018/19年度は生産が回復(35.0百万トン)したため、政府は2018年に輸入関税を28%に引き上げ、輸入は劇的に落ち込んだ。
- ・2019/20年度は、豊作予想(35.3百万トン)から輸入関税の55%への引き上げ(5月23日)を行ったことにより、当面ほとんど輸入は見込まれない。
- ・一方、豊作予想を受けて、2008年以降実施されてきた米の輸出禁止を5月30日に解除した。政府は年間100万トン以上輸出したいという希望を持っているものの、2015/16年度以降毎年4,000トンしか輸出しておらず、インド、タイとの厳しい輸出競争の中、実現できるかは疑問である。
- ・バングラデシュは2017/18年度以前にも、食糧危機と言われた2007/08年度に200万トンの米の輸入を行った。地理的にガンジス川の河口に位置するため、洪水被害にも遭う可能性もある。米の生産動向次第によっては、百万トンを超える輸入を行い、米の国際貿易に影響を与える可能性もあるため、注視する必要がある。



資料: USDA「PS & D」(2019.6)をもとに農林水産省にて作成



資料: USDA「Grain: World Markets and Trade」(2019.6)

II 油糧種子

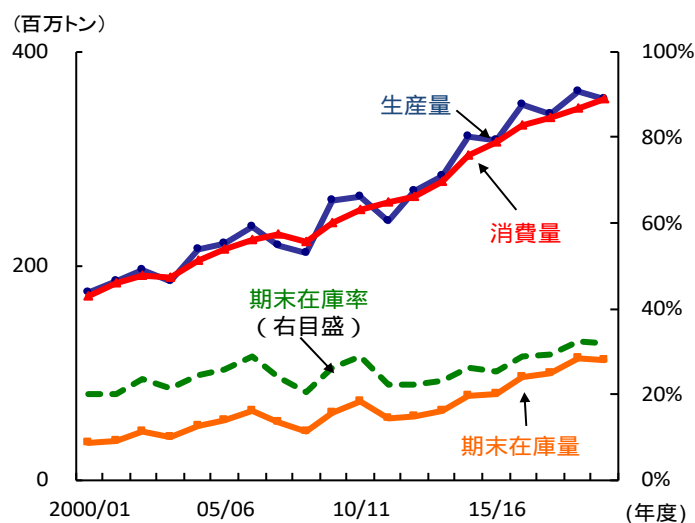
1 大豆

(1) 国際的な需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2019/20 年度

生産量	前年度比	↓	前月比	↓
・ウクライナ等で下方修正され、前月から下方修正された。				
消費量	前年度比	↑	前月比	↓
・ウクライナ等で下方修正され、前月から下方修正された。				
輸出量	前年度比	↑	前月比	↓
・ウクライナ等で下方修正され、前月から下方修正された。				
期末在庫量	前年度比	↓	前月比	↓



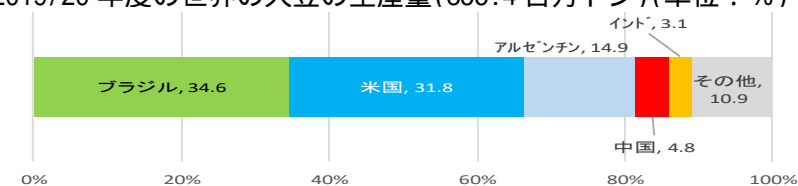
世界の大豆需給

(単位:百万トン)

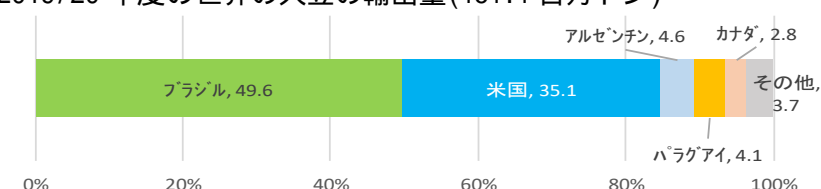
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	341.5	362.1	355.4	▲ 0.3	▲ 1.8
消費量	338.6	347.3	355.3	▲ 0.1	2.3
うち搾油用	295.1	301.6	308.1	▲ 0.1	2.1
輸出量	153.0	149.7	151.1	▲ 0.1	0.9
輸入量	152.9	148.6	150.8	-	1.5
期末在庫量	99.1	112.8	112.7	▲ 0.4	▲ 0.1
期末在庫率	29.3%	32.5%	31.7%	▲ 0.1	▲ 0.8

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(11 June 2019)

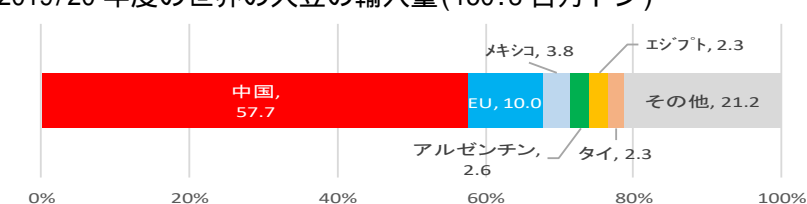
○ 2019/20 年度の世界の大豆の生産量(355.4 百万トン)(単位: %)



○ 2019/20 年度の世界の大豆の輸出量(151.1 百万トン)



○ 2019/20 年度の世界の大豆の輸入量(150.8 百万トン)



(2) 国別の大豆の需給動向

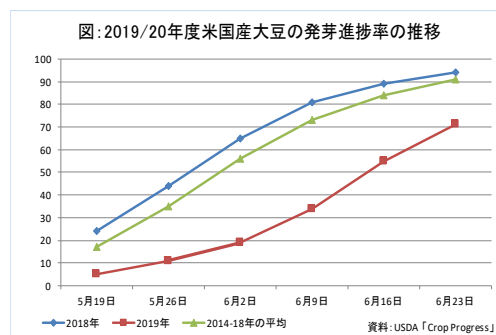
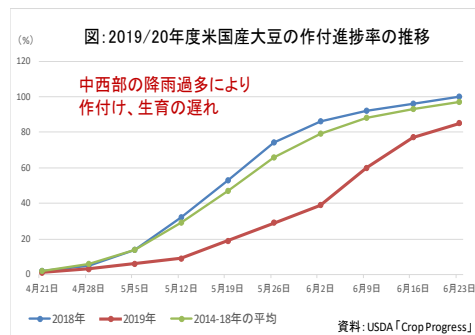
< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省（USDA）「Crop Progress」(2019.6.24)によれば、作付けが中西部で降雨により遅れており、23日時点の主要18州における作付進捗率は85%と前年度の100%及び過去5年平均の97%を下回っている。2019/20年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、113.0百万トンの見通し。なお、USDAは、2019/20年度作付けについて降雨による遅れあるものの、引き続き6月中の作付け進捗を見込み、作付面積及び生産量予測を据え置いている。

USDA「作付面積調査」(2019.6.28)によれば、収穫面積が、6月の需給予測（右表）から下方修正され、前年度より10%減少の32.08百万ヘクタールとなる見込み。大豆は、とうもろこしと比べて、中国向け輸出が低調で収益性が低いと判断されたことが要因と見られる。

【貿易情報・その他】2019/20年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、53.1百万トン。なお、2018/19年度の実輸出量は、中国向け輸出の停滞から、下方修正された。その結果、2018/19年度の期末在庫量（2019/20年度の期初在庫量）が上方修正され、2019/20年度の実在庫量も上方修正されている。

5月30日までの2019年累計輸出検証高は、合計17.9百万トンであり、内訳は中国（7.0百万トン）、メキシコ（2.0百万トン）の順である。また、降雨過多による作付け遅れにより、5月から、6月中旬にかけて、シカゴ相場、輸出価格が上昇した。



大豆 - 米国

(単位:百万トン)

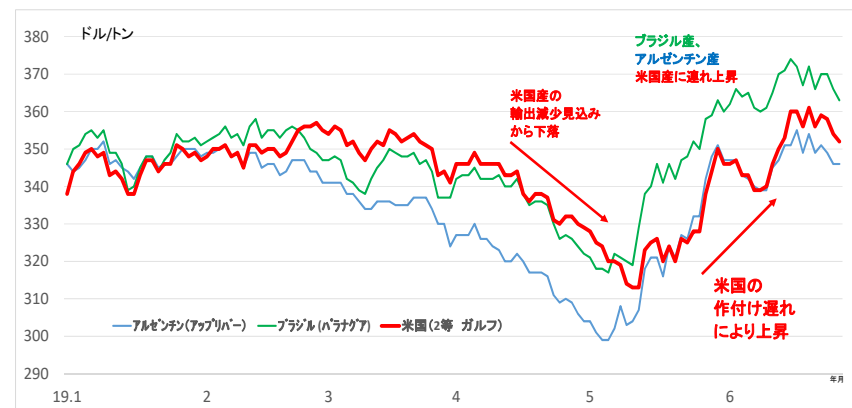
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	120.1	123.7	113.0	-	▲ 8.7
消費量	59.0	60.7	61.1	-	0.7
うち搾油用	55.9	57.2	57.6	-	0.7
輸 出 量	58.0	46.3	53.1	-	14.7
輸 入 量	0.6	0.5	0.5	-	17.4
期末在庫量	11.9	29.1	28.5	2.0	▲ 2.3
期末在庫率	10.2%	27.2%	24.9%	1.8	▲ 2.3

(参考)

収穫面積(百万ha)	36.24	35.66	33.92	-	▲ 4.9
単収(t/ha)	3.31	3.47	3.33	-	▲ 4.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 June 2019)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格（FOB）の推移



< ブラジル >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の123.0百万トンの見込み。本年9月以降に作付けが開始される。

【需給状況】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、46.5百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、75.0百万トンとなり、依然として世界の大豆輸出量の49.6%を占め、世界第1位のシェアとなる見込み。

ブラジル農業協会によると、2019年5月の輸出量は、10.5百万トン。「OIL WORLD Monthly」(2019.6.14)によれば、6月までは中国向け輸出は好調であるが、国内在庫量の減少により、7月以降は輸出ペースが落ちる見込み。

大豆 - ブラジル

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20			
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	122.0	117.0	123.0 (121.0)	-	5.1	
消費量	46.5	45.4	46.5 (…)	-	2.5	
うち搾油用	44.5	42.7	43.8 (…)	-	2.5	
輸出量	76.2	78.5	75.0 (…)	-	▲ 4.5	
輸入量	0.2	0.2	0.2 (…)	-	33.3	
期末在庫量	32.7	26.0	27.7 (…)	-	6.5	
期末在庫率	26.7%	21.0%	22.8% (…)	-	1.8	

(参考)

収穫面積(百万ha)	35.15	36.10	36.90 (36.80)	-	2.2
単収(t/ha)	3.47	3.24	3.33 (3.29)	-	2.8

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(11 June 2019)
OIL WORLD 「OIL WORLD Monthly」(14 June 2019)

ブラジルのクロープカレンダー(2018/19年度)(中部から南部)

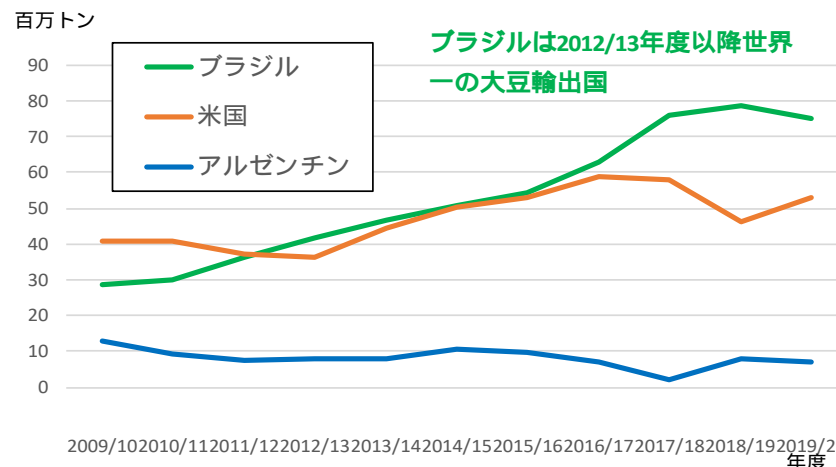
2018/19年度の大豆は、例年より早い2018年9月に作付けを行い、2019年2月には収穫が終了した。

ブラジルのクロープカレンダー(中部から南部)

2018/19年度	2018年												2019年								
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
夏とうもろこし	マトグランド州等 作付 5.0(百万ha)												収穫 26.3(百万t) → 収穫夏冬計 97.0								
冬とうもろこし	← 作付面積夏冬計 17.3												作付 12.3 → 収穫 70.7								
大豆	マトグランド州、パラナ州等 作付 35.8												↑ 早熟種大豆収穫後冬とうもろこし播種 収穫 114.8								

資料: CONAB 穀物レポート(2019.6.11)

米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出量の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(2019.6)のデータをもとに農林水産省にて作成

< カナダ >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、6.3百万トンの見込み。

USDAの「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2019.6.11)によれば、主産州のカナダ東部のオンタリオ州及びケベック州では、雨がちな天候により作付けが遅れている。

また、カナダ農務農産食品省(AAFC)によれば、近年の新興生産地であるマニトバ州をはじめとする平原三州では、4月の乾燥により、作付面積が減少すると予想されている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、4.3百万トンの見込み。

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の前月予測からの変更はなく、53.0百万トン。現在、収穫期を迎えている2018/19年度の前月予測からの変更はなく、56.0百万トンの見込み。なお、ブエノスアイレス穀物取引所週報(2019.6.19)によれば、収穫は、概ね終了した。

【需給動向】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、52.2百万トンの見込み。また、「OIL WORLD Weekly」(2019.6.7)によれば、5月より、国内での搾油が始まり、今期は農家販売が早く、搾油業界の大豆保有率も高くなっている。

【貿易情報・その他】「OIL WORLD Monthly」(2019.6.14)によれば、今後、ブラジル産の中国向け輸出の減少に伴い、中国がアルゼンチン産大豆の輸入を増加させると見込まれる。

2018/19年度の輸出は開始されたばかりであるが、順調であり、中国、ベトナム向けが多い。アルゼンチンは、国内搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、USDAによると、2019/20年度の大豆油輸出量は5.7百万トン、大豆粕輸出量は48.1百万トンの見込みである。

大豆 - カナダ

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	7.7	7.3	6.3 (6.5)	-	▲ 13.7
消費量	2.9	2.7	2.6 (2.5)	-	▲ 2.6
うち搾油用	1.9	2.0	1.9 (…)	-	▲ 5.0
輸出量	4.9	5.4	4.3 (4.5)	-	▲ 21.3
輸入量	0.5	0.8	0.8 (0.4)	-	-
期末在庫量	0.6	0.6	0.9 (0.6)	-	35.3
期末在庫率	8.1%	7.9%	12.5% (8.9%)	-	4.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.94	2.55	2.20 (2.27)	-	▲ 13.7
単収(t/ha)	2.63	2.86	2.86 (2.87)	-	-

資料: USDA「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(11 June 2019)
AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(14 June 2019)

大豆 - アルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	37.8	56.0	53.0 (52.8)	-	▲ 5.4
消費量	43.6	48.9	52.2 (…)	-	6.6
うち搾油用	36.9	42.0	45.0 (…)	-	7.1
輸出量	2.1	7.8	7.0 (…)	-	▲ 9.7
輸入量	4.7	6.4	3.9 (…)	-	▲ 38.6
期末在庫量	23.8	29.5	27.2 (…)	▲ 1.5	▲ 7.6
期末在庫率	51.9%	52.0%	46.0% (…)	▲ 0.02	▲ 6.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.30	17.10	17.50 (17.30)	-	2.3
単収(t/ha)	2.32	3.27	3.03 (3.05)	-	▲ 7.3

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(11 June 2019)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(14 June 2019)

< 中国 >

【生産・生育状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、17.0百万トンの見込み。

【需給動向】USDAによると、2019/20年度の消費量は、2018年に発生したアフリカ豚コレラの影響もあり、中国国内需要が低調なまま、前年度から回復せず、103.7百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸入量は、87.0百万トンの見込み。また、USDAの「Oil Crop Outlook」によれば、10月から4月の大豆輸入実績を比べてみると、2018/19年度は、過去と比べ、輸入量が減少し、輸入先国についても、米国割合が減少し、ブラジルが増加している。(下図参照)

中国の貿易統計によれば、5月の輸入量は、7.4百万トンと前年度同月と比べ、2.3百万トン減少した。内訳は、ブラジル産6.3百万トン、米国産1.0百万トンである。

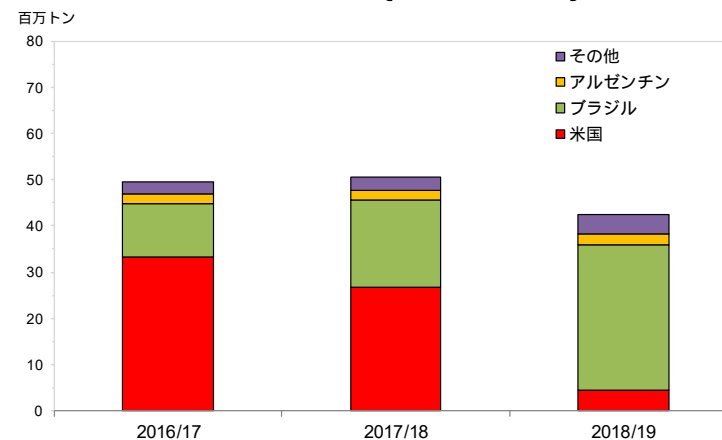
大豆 - 中国

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20			
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	15.2	15.9	17.0 (16.7)	-	6.9	
消費量	106.3	103.1	103.7 (…)	-	0.6	
うち搾油用	90.0	86.0	86.0 (…)	-	-	
輸 出 量	0.13	0.13	0.13 (…)	-	-	
輸 入 量	94.1	85.0	87.0 (…)	-	2.4	
期末在庫量	23.5	21.2	21.4 (…)	▲ 1.0	0.8	
期末在庫率	22.1%	20.5%	20.6% (…)	▲ 1.0	0.0	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	8.25	8.40	9.10 (8.25)	-	8.3	
単収(t/ha)	1.80	1.84	1.81 (2.02)	-	▲ 1.6	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 June 2019)、
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(14 June 2019)

中国の大豆輸入量(10月～4月期)の比較



資料：USDA「Oil Crops Outlook」(2019.6.13)

(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2019/20年度)

	小麦	とうもろこし	米	大豆
米国	19年6月～20年5月	19年9月～20年8月	19年8月～20年7月	19年9月～20年8月
カナダ	19年8月～20年7月			19年8月～20年7月
豪州	19年10月～20年9月		20年3月～21年2月	
EU	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月		
中国	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月
ロシア	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月		19年9月～20年8月
ブラジル		20年3月～21年2月	20年4月～21年3月	19年10月～20年9月
アルゼンチン	19年12月～20年11月	20年3月～21年2月		19年10月～20年9月
タイ			20年1月～12月	
インド	19年4月～20年3月		19年10月～20年9月	
ベトナム			20年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
例えば、2019/20年度は、米国の小麦では2019年6月～2020年5月、ブラジルのとうもろこしでは2020年3月～2021年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads?tabName=default>

【利用上の注意】

海外食料需給レポートは、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC等）の公表資料、Oil World等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

- **海外食料需給レポートで使用している統計数値は、主に米国農務省が2019年6月下旬までに発表した情報を引用しています。**

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されますので留意してください。**
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>

(注：同サイトの「Reference Data」を参照)

- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「海外食料需給レポート」）を併記願います。
- 本文中の略称については以下の通りです。

FAO	国連食糧農業機関
IGC	国際穀物理事会
USDA	米国農務省
AAFC	カナダ農務農産食品省
ABARES	豪州農業資源経済科学局
CONAB	ブラジル食料供給公社
JAXA	宇宙航空研究開発機構
ASF	アフリカ豚コレラ

なお、生産見通し等の予測は、各国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

- 本レポートの電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 海外食料需給レポート

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

<p>連絡先 農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL：03-3502-8111 (内線 3805)</p>
